

令和7年度 長野県公衆衛生専門学校運営協議会 議事録

日 時 令和7年(2025年)10月2日(木)午後1時30分～3時32分
場 所 公衆衛生専門学校 会議室
出席者 【外部委員】 鈴木 弘也 (一般社団法人上伊那歯科医師会副会長)
赤羽 恵子 (長野県歯科衛生士会上伊那支部会員)
江口 義子 (伊那市子育てサポート課歯科衛生士)
濱 輝美 (長野県公衆衛生専門学校後援会会长)
小林 由紀江 (長野県公衆衛生専門学校同窓会会长)
【学校職員】 濑戸 斎彦校長 以下2名

会議

1 挨拶(瀬戸校長)

日頃より当校の運営に関し御理解と御協力を賜り、感謝申し上げる。特に県歯科医師会の先生方には、本当に多くの御支援をいただきこの場をお借りして、厚く御礼を申し上げる。

本校は歯科衛生士の養成を行い、県内を中心として多数の医療機関へ人材を送り出すことにより、県民の歯科口腔衛生の向上の一役を担っている。昨年6月の、診療報酬・介護報酬の同時改定において、歯科衛生士による口腔ケアの加算が拡大されたことを鑑みると、歯科衛生士の役割と需要はますます増えるものと考えている。本校は南信地域唯一の歯科衛生士の養成校であり、地域に根差し、地域の皆様に支えられている学校である。地域住民、関係者各位からの御意見を学校の運営に反映させるべく、令和2年度に本協議会を設置した。

忌憚のない御意見をいただき、協議会としての評価をお願いしたい。

2 自己紹介

名簿に基づき順番に

3 議長選任

協議会規程第5により会長を互選

赤羽委員から鈴木委員を推薦、出席委員の賛同により鈴木委員を会長とする。

4 会議事項(進行:鈴木会長)

(1) 令和6年度の学校運営について 資料に沿って事務局から説明

【質疑応答】

(鈴木会長)

・現在、2年生の臨床実習を受け入れているが、挨拶態度面が素晴らしい。非常にまじめに取り組んでおり、卒業後に即戦力になる学生を養成できていると思う。

(赤羽委員)

・国家試験不合格となった学生は意外な学生だったのか。

(吉田)

・想定外の学生であった。マークミスがあったと考えられる。

模試をとおして国試本番の緊張感も練習できるように工夫していく。

(鈴木会長)

・模擬試験は何回行っているのか。

(吉田)

・合計15回程。普段の教室ではなく、なるべく本番に近い雰囲気を作り取組んでいる。

(鈴木会長)

・臨床実習Ⅱの225時間5単位とは何日間での実習なのか。

(吉田)

・臨床実習は45時間で1単位となる。臨床実習Ⅱは1日7.5時間の実習を30日間行い、合計225時間となり、評価が認定されれば5単位を取得できる。

(江口委員)

- ・何カ所の歯科医院に実習を行っているのか。

(吉田)

- ・臨床実習Ⅱでは松本歯科大学病院3科と、1人につき3つの歯科医院で実習を行わせて頂いている。

。

(2) 令和6年度の学校評価案 について

資料に沿って事務局から説明

【質疑応答】

(赤羽委員)

- ・伊那中央病院の歯科衛生士の配置が充実したのは何かきっかけはあったのか。

(吉田)

- ・歯科衛生士が行う口腔ケアは、患者の全身状態の改善だけでなく、看護師の負担軽減にも大きく影響していると聞いている。それを病院が理解してくれ、人員増に繋がっていると考えている。

(鈴木会長)

- ・歯科衛生士が口腔ケアを行う事で入院日数減少、再入院予防になる。手術前の口腔ケアの必要性は医師にも周知の事実なので、そこに人材が掛けられての事ではないか。

(吉田)

- ・病院からの求人も増えている。歯科衛生士が浸透してきているが、まだまだ過渡期である。

(江口委員)

- ・高齢者施設からの求人はあるのか。

(吉田)

- ・施設からの新卒の求人はない。新卒ではハードルが高い。

(鈴木会長)

- ・施設では他職種への口腔ケア指導が必要になるため新卒では難しいが、専門的な口腔ケアを行える歯科衛生士が1人いるだけで施設全体の口腔ケア状態が変わる。

(鈴木会長)

- ・離職率には人間関係の影響が大きい。学生には職場を変えて歯科衛生士を長く続けて欲しいと話していた。人間関係の合う合わないは分からぬが、離職率は見られている。

(吉田)

- ・歯科衛生士のやりがい、長く勤めるメリット、色々な場所での経験で自分を高める事を伝えている。入ってみないと分からないこと、キャリアガイダンスでは伝えられないところもある。

(鈴木会長)

- ・歯科衛生士は担当制で患者さんと10年20年の付き合いができる。これほど人の人生に関われる職業はなかなかない。歯科医師よりも患者と深く関わることができるとてもいい職業である。

(校長)

- ・実習をとおして歯科衛生士のやりがい、素晴らしいをその都度伝えている。

(吉田)

- ・一つひとつの積み重ねで自信を付け、やりがいに繋げ、それが離職率の減少になるとを考えている。

(濱委員)

- ・学校行事での様子、鈴木会長からの実習の様子の話では「(4)学校生活支援」の挨拶、身だしなみについては4を付けてもいいのではと思うが、なぜ評価が3なのか。

(赤羽委員)

- ・学生の気質、生活環境によっては、分かっていてもしたくない学生もいる。価値観の問題である。全員が一律にできるようになるのは難しいのではないか。

(吉田)

・一律で指導をしているが、できてない学生もいる。ばらつきが出ている現状がある。
(校長)

・実習先からの御意見もいただいている。本人の自覚があってもなかなかできない部分
もある。

(鈴木会長)

・性格、特性もある。やる気になることが大事。

(吉田)

・学校としては、人として挨拶、身だしなみがしっかりできて欲しいという思いがある。
常日頃から指導しているが結果を出すのは難しい項目である。

(3) 令和7年度 学校評価案 について

資料に沿って事務局から説明

・学校が目指す姿は基本的に変わらないため、内容はほぼ令和6年度と同様である。

・意見があれば2週間以内に学校に連絡を頂きたい。意見があった場合は委員に連絡し、
承認をいただいたものをホームページに掲載する。

6 閉会 (進行)